

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 100 人

② 数学 101 人

#### 5 留意事項

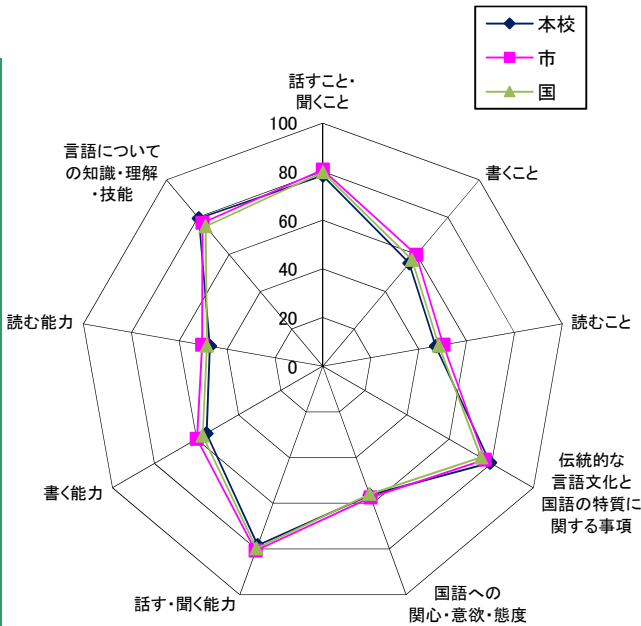
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 78.4 | 80.8 | 79.8 |
|     | 書くこと                 | 55.3 | 59.8 | 57.1 |
|     | 読むこと                 | 47.2 | 50.4 | 48.5 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 79.4 | 77.0 | 75.1 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 56.4 | 57.5 | 56.0 |
|     | 話す・聞く能力              | 78.4 | 80.8 | 79.8 |
|     | 書く能力                 | 55.3 | 59.8 | 57.1 |
|     | 読む能力                 | 47.2 | 50.4 | 48.5 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 79.4 | 77.0 | 75.1 |



★指導の工夫と改善

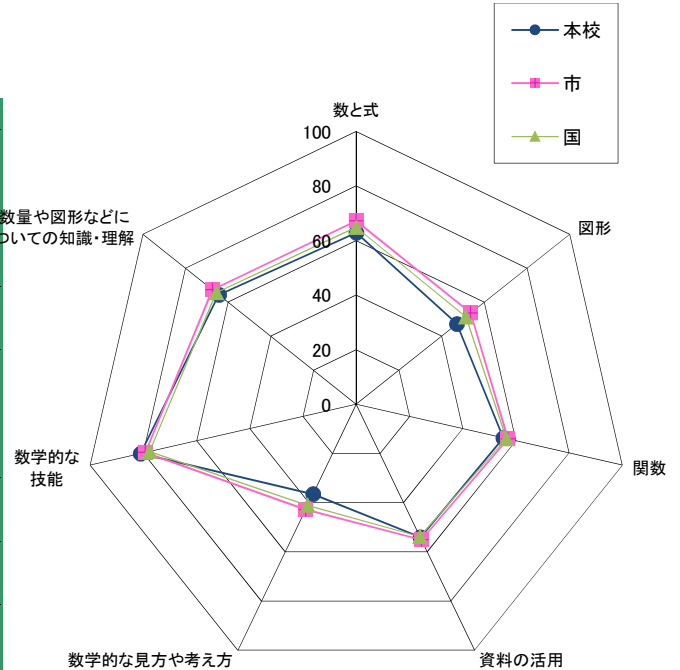
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える記述式の問題では、全国の平均正答率を3.7ポイント上回っている。<br>●話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える記述式の問題において、無回答率は、全国より5.9%高く、9.3%と1割近い生徒が無回答である。<br>●質問の意図を捉える問題では、全国平均を1.8ポイント、話し合いの話題や方向を捉える問題では、6.2ポイント下回っている。                         | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・グループでの話し合い活動は、各教科の授業において継続して行っており、その積み重ねが全国平均を上回る結果につながっていると考えられる。引き続き、話し合い活動を取り入れた学習活動を行なっていく。<br>・3学年で「議論の仕方のだいたいの技術」を学習する題材がある。1,2学年でも話し合い活動の進め方を学習できる題材を取り上げ、その技術を生かした話し合いや議論を実際に授業で行ない、話題の方向性や質問の意図の捉え方を把握させていきたい。それを基に話し合い活動を積み重ね、話すこと・聞くことの力を高めていく。 |
| 書くこと                 | ○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題では、全国平均正答率を4.4ポイント上回っている。<br>●書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題が全国平均を9.3ポイント、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題では、0.3ポイント下回っている。                                                                       | ・授業において、自分の考えをノートに書いたり、ワークシートにまとめたりする作業を適度に取り入れ、自分の伝えたい事柄を言葉で表現するトレーニングを積んでいく。文を書く際には、なぜそう思うのか、その理由を明確にするよう指導する。<br>・定期テストには、必ず短文作りの問題を入れる。<br>・読むことの題材において、物語・小説では心理描写や情景描写から内面の思いを伝えるための効果的表現の学びを、論理的文章では説得力のある表現の仕方や文章構成の工夫の仕方を学び、そこから自己の表現に生かしていく指導を行っていく。                          |
| 読むこと                 | ○文脈の中における語句の意味を理解する問題では、全国平均正答率を8.9ポイント上回っている。<br>●場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題は、全国平均を3ポイント、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題では、5ポイント、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題では6.1ポイント下回っている。<br>●上記最後の記述式問題では、無回答率は全国平均より11%高く、35.1%である。 | ・物語や小説では、場面ごとに登場人物の言動や情景描写が書かれてるところに線を引き、そこから読み取れる心情を捉えていく学習活動を行っていく。<br>・論理的文章では、接続詞に注意して文章構成をおさえ、筆者の論の展開の仕方を理解したうえで、筆者のものの見方や考え方を捉えさせていく。さらにそこから自分の考えをもち、まとめ、発表していく学習活動を積み重ねていく。<br>・単元テストで読む力の定着を図っていく。                                                                              |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○漢字の読み問題は二つあったが、正答率は96.9%、89.7%と高い状況にある。<br>○事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題は、全国平均正答率を1.3ポイント上回っている。<br>○相手や場に応じた敬語を適切に使う問題では、全国平均より15.4ポイント上回っている。                                                                                | ・漢字学習(ワーク)とその確認テストを継続して活用していく。漢字学習は確認テストごとにチェックし、確認テストの点数も記録し、力の付き具合を見ていく。<br>・タブレットを活用し、分からない語句はすぐに調べ、語彙を増やしていく。<br>・ワークやデジタル教材にある補充問題に取り組みせ、語句や文法の学習内容の理解を深めさせていく。                                                                                                                    |

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】 分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分                | 本年度  |      |      |
|----|-------------------|------|------|------|
|    |                   | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と式               | 62.9 | 67.2 | 64.9 |
|    | 図形                | 47.2 | 53.6 | 51.4 |
|    | 関数                | 55.3 | 57.0 | 56.4 |
|    | 資料の活用             | 54.1 | 55.1 | 53.8 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度      |      |      |      |
|    | 数学的な見方や考え方        | 36.5 | 42.8 | 41.1 |
|    | 数学的な技能            | 81.1 | 79.3 | 77.7 |
|    | 数量や図形などについての知識・理解 | 64.4 | 67.4 | 65.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                             |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | ○数量の関係を一元一次方程式で表す問題では、全国の平均正答率を6ポイント上回っている。<br>●4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する問題では、全国の平均正答率を10.3ポイント下回っている。    | ・説明する問題では、スモールステップで段階的に指導し、できたことを認め、できていないことを課題として認識させながら、指導を行っていく。                                                                                                  |
| 図形    | ●おうぎ形の中心角と弧の長さとの関係についての問題では、全国平均の正答率を2.1ポイント下回っている。<br>●錯角が等しくなるための2直線の位置関係についての問題では、全国の平均正答率を8.6ポイント下回っている。 | ・全体的に、県や全国の平均正答率を下回っていることから、平面図形や空間図形のイメージがもてないことが考えられるため、ICT機器を有効に活用していく必要がある。<br>・数学的に表現する問題の正答率が著しく低いため、言葉で説明することや文章で説明すること、さらには図などを活用して説明していくことなどの活動を、多く取り入れていく。 |
| 関数    | ○関数の意味を理解しているか問う問題では、全国の平均正答率を4.6ポイント上回っている。<br>●問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率が20.6ポイントと非常に低い。                      | ・関数の意味について、理解している生徒が全体の半数となっているため、一つ一つ理由を説明しながら丁寧に指導していく。<br>・説明する問題の正答率が低かったため、式・表・グラフなど、様々な視点から解決する方法を指導していく。                                                      |
| 資料の活用 | ○中央値を求める問題では、全国の平均正答率を4.2ポイント上回っている。<br>●相対度数の必要性和意味を理解しているかの問題では、正答率が35.1ポイントと非常に低い。                        | ・基礎・基本を確実に身に付けさせるために、一つ一つの意味を丁寧に指導していく。知識が定着したら、日常生活に生かす方法を考えさせることで、必要性を認識させる。                                                                                       |

## 宇都宮市立城山中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話の使い方について、家の人との約束を守っていますか」の肯定的回答の割合が、全国平均より10ポイント上回っていること、また、ゲームの使用時間も全国平均より少ないことから、3年生になり、家庭での時間の使い方を含め、携帯電話の使用の仕方などを家の人と話し合う機会をもっていることや、周囲からの助言を素直に受けとめる生徒が多いことが考えられる。

○「自分で決めたことはやり遂げようとしている」の肯定的回答の割合が、全国平均より7ポイント上回っている。ねばり強く取り組むことにより、学校や家庭での成功体験が後押ししていると考えられる。

●休みの日の勉強時間は全国平均を下回っており、計画的に家庭で学習する習慣がなかなか身に付いていない現状が見受けられる。また、学習習慣がきちんとついている生徒とそうでない生徒との差が大きいことも、課題として挙げられる。

●学校の授業以外の読書時間は全国平均を下回っている。学校でも朝の読書の時間を継続して確保し、本を読む習慣をつけさせていく。

○「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答の割合が、全国平均より15ポイント上回っている。地域貢献を目標とする本校の特色である「ふるさと学習」や「あったか活動」に取り組んだり、SDGsと大谷地区との関係などを考えながら、学習を進めてきたりした成果が現れていると考えられる。

○「総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」の肯定的回答の割合が全国平均より13ポイント上回っている。タブレットが個人で使えるようになり、調べ学習のツールが増えたこと、まとめ方もタブレットを使用した形態を選択することができるようになったこと、などが全国平均より上回った理由として考えられる。

## 宇都宮市立城山中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                     | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                             | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習目標の明確化と定着のための振り返りの充実、指導法や授業形態の工夫による学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本時の目標」の掲示カードを各教室に用意して授業開始で学習目標を確認、最後に振り返りを行うことで学力定着の充実を図る。</li> <li>・「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし、小学校からの継続した家庭学習の定着を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容について、分かった点や良く分からなかった点を見直し、次の学習につなげているかという質問に、肯定的に回答した生徒は8割以上いた。</li> <li>・家で計画を立てて勉強をするという質問には、7割以上の生徒が肯定的に回答しているが、休日の学習時間は全国平均を下回っている。</li> </ul> |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                               | 重点的な取組            | 取組の具体的な内容                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役には立つと考えている生徒は9割近くいるが、他の生徒との意見交換や調べたりするのに使用している頻度が少なかった。 | 学習におけるICT機器の使用の工夫 | 各教科において、クロームブックを使用する教科が増えている。総合学習の調べ学習やまとめ、生徒会や委員会活動等に使用する機会を、さらに増やしていく。 |